

H25年度11月朝礼 「大きな勇気と小さな勇気」

H25.11.11. 橋本

今日は「勇気」ということについて考えてみたいと思います。勇気には「大きな勇気」と「小さな勇気」があるのではないかと思うのです。

「大きな勇気」と聞いて思い浮かぶことはありますか。みなさんはちょうど1ヶ月くらい前のニュースで「線路にうずくまつた老人を自分の身を投げうつて助けた女性」がいたのを覚えていますか。この話を聞いたときに、とても勇気のある女性だなと感心してニュースを聞きました。

また、以前に読んだことのあった「塩狩峠」という小説を、ぱっと思い出しました。

塩狩峠の話はこのようない話です。

北海道の和寒町（わっさむちょう）というところに、「塩狩峠」という峠があり、列車が走っています。あるとき、この峠を越えようとしていた列車の連結器（列車と列車をつなぐ部分）が外れ、一番後ろの客車が坂を下り始めました。偶然乗り合わせた長野政雄さんという人が、とっさの判断で身を投げ出して坂を下り始めた列車の下敷きになりました。列車を止めました。長野さんは列車にひかれて亡くなりました。列車は無事止まつたそうです。もし、長野さんが止めなかつたら、客車はぐんぐんスピードを上げて坂を下り、多くの人が亡くなる大事故になつたはずです。自分の身を投げうつて他の多くの人を助けた長野さんの「大きな勇気」に感心しました。この小説を読んだのは、もう30年も前になりますが、その時ずつしりとした重い感動を覚えたのを今でも覚えています。実は、この話に登場する長野さんやこの事故は実際にあつた話だそうです。

線路の老人を助けた女性、客車を止めた長野さんのように、いざとなつたとき、我が身を振り返らず、人のために命を投げ出すことができる「大きな勇気」が自分にもほしいなと感じます。

次に「小さな勇気」のことです。まず、次の詩を読んでほしいと思います。前回紹介した東井義雄さんの詩です。

小さい勇気をこそ

東井義雄

人生の大嵐がやつてきたとき
それがへつちやらで
乗りこえられるような
大きい勇気もほしいが
わたしは
小さい勇気こそほしい



わたしの大好きな仕事を
後回しにさせ
忘れさせようとする小さい悪魔が
テレビのスリルドラマや
漫画にばけて
わたしを誘惑するとき
すぐそれが
やつつけられるくらいの
小さい勇気でいいから
わたしはそれがほしい

もう五分
ねていたっていいじゃないか
けさは寒いんだよと
あたたかい寝床の中に
ひそみこんで
わたしにささやきかける
小さい悪魔を
すぐやつつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

明日があるじゃないか
明日やればいいじゃないか
今夜はもう寝るよと
机の下からささやきかける
小さい悪魔を
すぐやつつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそほしい

紙くずがおちているのを
見つけた時は
気がつかなかつたというふりをして
さっさといつまえよ
かぜひきの鼻紙かもしれないよ
不潔じゃないかと呼びかける
小さい悪魔を
すぐやつつけてしまえるくらいの
小さい勇気こそ
わたしはほしい

どんな苦難ものり切れる
大きい勇気も
ほしいにはほしいが
毎日 小出しにして使える
小さい勇気でいいから
それが わたしは
たくさんほしい



それに
そういう小さい勇気を
軽蔑していっては
いざというときの
大きい勇気も
つかめないのでないだろか

どうでしょう。テレビや漫画に負けない勇気、朝寝坊に勝つ勇気、明日やればいいじゃないかという甘えをやつける勇気、紙くずなど小さなことはほつておいてもいいやという気持ちに負けない勇気、こういう小さな勇気なら先生でも持つことができそうな気がします。最初に紹介した大きな勇気をふるうことはなかなか難しいなと感じた人も、この詩のような小さな勇気なら発揮できるのではないかでしょうか。

大きな勇気をふるうこともとても大切なことです、でも同じように小さな勇気を持ち続けることも大切なことだと思います。そして、小さな勇気の積み上げが大きな勇気につながるのではないかと思います。ぜひ、小さな勇気を発揮しましょう。